

伊那谷地名研究会通信

第 44 号

発行日
発行所
事務所

平成二五年一〇月二〇日
伊那谷地名研究会
〒399-2102
長野県下伊那郡下條村陽阜七二〇八

谷川健一先生を忍んで

伊那谷地名研究会 会長 原 董

日本地名研究所所長谷川健一先生は八月二十四日、九十二歳で亡くなられ、二ヶ月が経過します。亡くなられる十日ほど前、機会があつて電話でお話した際、お元気に話されたお声が耳の奥に蘇り残念な思いでなりません。心から哀悼の誠を届けさせていただきます。

谷川健一先生は大正十年熊本県にお生まれになり、東京大学文学部をご卒業され、民俗学者、地名研究の第一人者また歌人として、多くの著名な研究活動とその実績を残されました。

中でも、「地名は大地に刻まれた歴史の索引である。」という一貫した思想の下に、昭和五三年に「地名を守る会」を結成、地名の研究とその擁護の必要性を痛感され、昭和五六年には、「地名を通して『地方の時代』を考える全国シンポジウム」を神奈川県川崎市で開催され、神奈川県と川崎市の賛同により川崎市に、「日本地名研究所」が開設され、今日ある全国的な地名研究活動を進展された先駆者であります。伊那谷地名研究会の活動もその一端であります。谷川健一先生と伊那谷地名研究会の大切な関りは、平成十三年十一月二三日、先生をお招きして、多くの参加により飯田市美術館で、「伊那谷地名研究会」を発足したときからです。

先生からその折りいただいたご教示の中で、「伊那谷は、人々のこまやかな共通の感情がこもる温かい土地柄と、それに育まれた地名を伝えていきます。地名研究を通して、日本列島の中心に位置する、伊那谷の先人が歩んだ足跡を身近に引き付ける、独自性を築く活動を考え、大切に取組みを進め、伊那谷地名研究会が発展されることを期待します。」と、長年、伊那谷を研究され得られた、民俗と地名研究から見える大切な教えと励ましを頂き活動を続けています。「とにかく本に纏めることです。」との先生のご指摘で、平成十七年に始めた「地名コラム」の冊子、『伊那谷の地名―風土と人びとを結ぶ文化―』は現在第三輯発刊を終え、会員の力で地名コラムを継続し、活動をつづけています。地名研究はいと小さき研究に見られがちですが、「今、なぜ地名なのか」、が全国的に提言されていますように、地域教育の大切な研究です。

谷川健一先生のご冥福を心からお祈り申し上げ、先生から戴いた教えを改めて学び、「伊那谷地名研究会」の更なる発展を目指すことをお誓します。



第 27 回 熊野大会での谷川健一先生

市民が取り組む「古い地名」の調査

伊那市教育委員会 生涯学習課

竹松 亨

その土地を舞台に生きた人々の心と姿、生きる知恵が含まれた「古い地名」がさまざまな理由によって消え去ろうとしています。



その「古い地名」をできるだけ多くの市民の皆さんに参加してもらい、記録として残し、後世に伝えていこうとするのがこの取り組みです。

白鳥孝伊那市長は以前より「自然にあるものを余すことなく利用していた時代の知恵」を掘り起こし、再びそれが活かせる社会を願い、公民館活動を中心にお年寄り、子供たちまで巻き込んで取り組んできました。

その中で、人々の生活の中から生まれ、郷土を愛する象徴ともなってきた「古い地名」のことを知るお年寄りがだんだん少なくなっていくのを目の当たりにしました。何とか今の内にそれを残すことができないうものかと考えたのがこの取り組みの発端です。伊那市における「古い地名調査」についての基本的な構想と、実際に始まった調査の一部について語りたいと思います。

まず、地名のどのようなことを、どのような組織で、どんな人たちが、どんな方法で調査し、まとめるかについて考えました。

地区名と公称地名の由来と変遷を

市民の皆さんから地名について何を知りたいか

聞いてみました。すると、まず、「自分の住んでいる地区名にはどのような由来があり、どのような変遷をたどって今の地区名になったか知りたい」と「家の周囲には誰が、何時頃、どんな思いでつけたかわからないが、子供の頃から親しんできた地名がいっぱいある。でも、昨今、あまり使われなくなり、忘れ去られようとしている。それについて調べてほしい」という声が圧倒的でした。

しかし、同時に道の名前、橋の名前、川や沢や山の名前の由来等々、また「地名と関連して地区の歴史も知りたい」との声も少なくありませんでした。「地名調査」を広げていくと限りなく広がり、收拾のつかないものになってしまいそうに思えました。

そこで四カ年でできる調査対象として、「地区名の由来と変遷」「公称地名(大字や小字)やその他特徴ある地名の由来」に絞ることにしました。そしてそのほかに調査の中で出てくることは資料として記録するだけにとどめようと考えました。

公民館の分館活動として

「どんな組織で行おうか」と考えたとき、伊那市で盛んな公民館活動の中の分館活動としてできないだろうかと考えました。もちろんどの分館もさまざまな事業、行事で手いっぱいということには理解していました。そこで分館の方々は「調査グループ」の設立だけをお願いし、運営についてはできるだけ生涯学習課で行うことにしました。ただ、分館長さんの中には率先してグループに参加してくれる人が結構ありました。

幸いこの事業は文部科学省の「公民館を中心とした社会教育活性化支援プログラム」として認められ、補助もいただけることになりました。

調査グループは

グループは二つの方法で作ってもらいました。一つは分館長が中心になって組織してもらいました。地区の地名や歴史に詳しい人に集まってもらったグループです。もうひとつは、「古い地名調査をしてみませんか」という呼びかけに応じてくれた方々にそれぞれの地区の調査グループに加わってもらいました。

平成二五年度はプレ調査として伊那市九地区ある中の西箕輪、東春近の二地区で調査を開始しました。一八グループに二一人の人が参集してくれました。呼びかけで集まってくれた人は全調査員の約一割ですが、その中にはグループの長となり、調査をリードしている人もいます。

オーラルヒストリー的に

調査方法に関してはまず、「市民の手による調査」の意味、そして方法などを考えることからはじめました。

調査にはできるだけ多くの皆さんに参加してもらい、地名に興味・関心をもってもらい、地名の大切さを考えてもらうことだと思いました。

また、調査の呼びかけや、アンケートなどの調査活動の広がりをおして、市民の皆さんが地名に触れる機会を多くし、理解を深めてもらおうと思いました。調査方法は「頼るべき資料がなかったり、資料が極端に少なかったりした場合の歴史研究の手段」として「聞き書き」を中心とした「オーラルヒストリー」という方法があることを知り、その方法で調査することにしました。

この提案に対して、「専門家による学術的な調査の方がより意義があり、何も根拠のない『聞き書き』の寄せ集めでは意味がないのではないか」という声もありました。

そのことについては「もつともだ」という思いもあります。専門家の皆さんによる調査は貴重な市の財産になるにちがいありません。

しかし、それと同じくらい「おじいさんから田んぼの土手で聞いた話だが」とか「蔵の中の書き物の中にこんなことが書いてあった」「子供の頃はみんなこう言っていた」などを集めることも十分意義あることではないかと思いました。

学術的な面については最初の基礎資料の中で配慮する意向です。また、実際、調査が始まっていますが、学術的な調査を重視するリーダーがいて上手に両方をミックスして調査を進めているグループも見られます。

中学生が使えるようなまとめに

調査の成果は各分館のまとめを基にして地区ごと本にまとめようと考えています。

本の前半は「地区名の由来と変遷」「地名の由来」です。小学校高学年から中学生が学習で使える読み物風にまとめようかと考えています。後半は地区名や公称地名に関する資料を掲載するつもりです。そのほかに出てきたさまざまな資料は別にデータベース化しようと考えています。

活動を進めていく中で

実際の活動は昨年一二月から始まりました。まず、市民の皆さんに「古い地名調査」を知ってもらうために、「今、なぜ地名なのか」のシンポジウムを開催しました。雪の日にもかかわらず百名近くの人が集まってくれ、関心の高さを実感しました。「市民の手で」の提案も多くの賛意を得ました。続いて調査グループ作りにかかりました。

最初は区長さん方に調査員推薦の協力をお願いし、その後、分館長会で事業の内容、グループ作りをお願いしました。やはり「忙しい分館活動

に新たな活動が加わるのか」の声もありましたが、地名を残すことの大切さを理解してもらい、二月末までに一八グループができました。三月、調査グループへの説明会を持ちました。ここでは、「地名調査への願い」「調査の取り組み方」などのほか、調査の基礎となる資料の説明にも力を入れました。前述の「学術的な」の声に少しでも応えなければと思ったからです。

資料のひとつは『伊那市の行政区画変遷系図』です『長野県史』『上伊那郡誌』『伊那市誌』『日本歴史地名大系』などから作成しました。江戸時代初期にあった五六の村が、どのようにして現在の伊那市としてまとまっていったかを示す系統図です。もうひとつは「小字名の変遷」とそれに伴う『字界図』（平成元年・伊那市作成）です。

江戸時代後半から明治初頭にあつた約一万の小字地名と昭和から平成にかけて調査した小字地名を地区ごとに掲載しました。出典は滝澤主税先生の『長野縣町村字地名大鑑』と『地字帳』（長野県立歴史館所蔵）です。

字地名を取り上げたのは、それが現在の地名に大きく関わっていること、また、さまざまな通称地名につながっていると思つたからです。

なお、江戸時代前期の検地帳の地名も入れようと思いましたが、江戸時代後期につながる地名は多くて三割、一割以下のところが多かったことと、伊那市全地区を網羅する検地帳（たとえば元禄検地帳）が用意できなかったからです。

グループの調査は

本年の四月から各グループの調査が始まりました。最初にアンケートをとりそれを元に調査を開始したグループ、歴史や地区内のことに詳しい人に集まってもらい、話し合いをしてそれを元に

調査を始めたグループ、地区めぐりをしその中で話題になったことを中心に調査を開始したグループ、区史の編纂とともに進めているグループなどと様々です。

八月には中間報告会を持ちました。報告会では「一軒一軒アンケートを回収する中で貴重な話が聞けた」「地区の蔵や調査に訪れた家から貴重な資料が出てきた（『元禄検地絵図』『西箕輪十三ヶ村入会図』『新田作り記録帳など）」「地区によって地名に特徴があるのではないか」「調査することが楽しくなった」などの報告があり、それぞれ刺激を受け合ったようです。

このプレ調査に続き、いよいよ秋から全市の調査が始まります。市民の皆さんの「地名」への思いが深まっていくことを願わずにいられません。



第59回 研究例会(上郷考古博物館)

追伸

伊那市のこの取り組みは、地名研究・地域教育の全国的に注目される活動です。日本地名研究所発行『地名談話室』11月号へ掲載され、全国に配付されます。

今後の活動に「伊那谷地名研究会」として、協力と連携を大切に考えます。

会長 原 董

千代・千栄の歴史・文化と地名探訪

11月23日(土) 受付午前8時30分 千代小学校・校庭

フィールドワーク開催について(通知)

ようやく秋の気配が感じられる気候となりました。お元氣でしょうか。収穫の季節を迎え、なにかと忙しい中ですが恒例であります。伊那史学会と地域の皆さんと共同で行います。フィールドワークを次により開催します。お誘いあわせご参加くださいますよう通知申し上げます。

記

日時 十一月二三日(土曜日)

受付 午前八時三〇分 開会 九時

集合 千代小学校 校庭

移動 見学場所への移動は乗り合わせ

主催 伊那谷地名研究会

共催 伊那史学会

千代公民館

千代の歴史を語る会

探訪史跡・神社・石造文化財等と地名など

化石出土地(桂化木出土地)

林芋村歌碑 荻坪観音 よこね田圃

野池神社と周辺の遺跡

親水公園と木地師の墓 大平裕郎氏正徳碑

法全寺と天与清敬 是徳上人名号碑

鷺ヶ城跡

その他 伴助の歴史 金田家の板碑や、重厚な神社仏閣による歴史・文化と、特徴的な地名を探訪します。

参加費 二〇〇円(資料代) 受付にて
その他 持ち物(昼食・防寒・雨具など)
小雨決行

千代・千栄は、伊那山脈による急峻な山々が重層する龍東地域の中でも谷深い地域ですが、その小谷間には、千年以前もから祭られる野池神社、「信濃国二宮」をはじめとする多くの神社仏閣が今も人びとの日常を支え、奥深い歴史・文化を包含し伝えるとともに、鎌倉時代の貴重な「板碑」が発見された驚きの地域です。

そうした背景に伴うものであろうこの地域の地名も、「大郡」(おおごうり)をはじめ、他の地域には見えない、特徴的な地名地域が歴史・文化を伝えていきます。

ぜひご参加いただき、地元の方々の説明から、千代・千栄地域の奥深い自然・歴史と地名文化に触れてみてください。

第10回を数える記念の地名フィールドワークです。会員の皆さま、お誘いあわせてご参加くださいますよう重ねてご案内申し上げます。

『地名コラム』原稿募集

全会員の皆さんで執筆をお願いします

南信州新聞に掲載の「地名コラム」はすでに三二〇回に届きます。地名研究資料でこれだけの連載は貴重な事例と評価をいただいております。さらに大事に継続したいものです。なによりも大切なことは、全会員みなさんにコラムの執筆をいただき、新聞に掲載を戴くことです。全会員の皆さんの原稿執筆を宜しくお願いします。コラム原稿のまとめは、原 董会長です。

飯田市教育委員会

『伊那谷の自然と文化』の取り組み

伊那谷研究団体協議会も参加して

「伊那谷の自然と文化」が持つ独自性、多様性、奥深さを学術的に明らかにし、継承してゆく人材育成のための「入門講座」(仮)を、伊研協を始めとする多彩な主体と協働して取り組む企画が検討されております。当会も参加してまいります。活動へのご参加ご協力をお願いします。

第3回文化財の保護保全を考える会

11月13日(水) 市美術博物館講堂13時30分

『伊那谷の地名』第3輯 購入販売活動を!

未購入の会員さん、購入・販売にご協力願います。

新会員紹介

宮島 久男氏 阿南町北條(御供) 在住
よろしくお願ひします。

伊那谷地名研究会事務局

事務局 中島正昭 TEL 〇二六五(二四) 〇一三五
三九五・〇〇〇四 長野県飯田市上郷黒田一九七七
E-mail nakajimaya2@clock.ocn.ne.jp